

# Economic Indicators

発表日: 2023年2月16日(木)

## 貿易統計(2023年1月) ～欧米向け実質輸出の減速が目立つ～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比								
22年	1月	▲ 21,994	▲ 9,408	9.6	38.7	▲ 4.1	▲ 1.0	9.7	▲ 10.5	4.8	4.7	20.9	3.9
	2月	▲ 6,772	▲ 10,578	19.1	34.0	2.8	5.0	2.1	6.1	▲ 0.8	6.1	12.8	▲ 5.4
	3月	▲ 4,240	▲ 9,143	14.7	31.3	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.1	2.7	▲ 0.3
	4月	▲ 8,538	▲ 14,447	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.7	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.1	5.1	▲ 15.6
	5月	▲ 23,906	▲ 18,168	15.8	48.8	▲ 3.5	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.4	3.1
	6月	▲ 14,042	▲ 18,923	19.3	46.0	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.7	▲ 6.5	2.0
	7月	▲ 14,449	▲ 21,122	19.0	47.3	▲ 1.9	▲ 5.6	17.3	▲ 2.0	2.2	17.5	▲ 4.0	2.2
	8月	▲ 28,248	▲ 23,148	22.0	49.8	▲ 1.2	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	3.9	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,998	▲ 20,199	28.9	45.8	3.8	18.3	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.2
	10月	▲ 21,750	▲ 23,275	25.3	53.7	▲ 0.4	4.8	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,326	▲ 18,452	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,518	▲ 18,202	11.5	20.7	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.5	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 34,966	▲ 18,213	3.5	17.8	▲ 11.6	▲ 3.5	▲ 4.2	▲ 15.4	▲ 2.3	▲ 10.7	▲ 6.6	▲ 3.1

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### 〇1月も大幅な貿易赤字が続く

財務省より発表された23年1月の貿易統計では、輸出金額が前年比+3.5%（事前予想：▲1.4%）、輸入金額が同+17.8%（事前予想：+20.7%）、貿易収支は▲34,966億円の赤字（事前予想：▲39,334億円の赤字）となった。資源高と円安の一服で輸入物価がピークアウトしていることで、輸入は前年比で鈍化が続いている。一方で、世界経済の減速やアジア圏の春節要因等で輸出の伸びも鈍化したことで、貿易収支は大幅赤字での推移が続いた。季節調整値でも輸出が前月比▲6.3%、輸入が同▲5.1%とそれぞれ減少し、貿易収支は▲18,213億円の赤字と前月から横ばいでの推移となった。物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）についても前月比▲2.2%（12月：同▲4.9%）となった（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。

1月については、中華圏における春節の時期が昨年と異なったことにより実勢以上に下振れた可能性があることに注意が必要で（昨年の春節は2月、今年は1月下旬）、アジア向けの足元の評価は2月と均してみる必要がある。もっとも、春節の影響を受けない米国向けと欧州向けでも1月は落ち込みが目立っており、実質輸出が足元で減速感を強めていることが確認できる結果である。

### 〇実質輸出は欧米向けの落ち込みが鮮明に

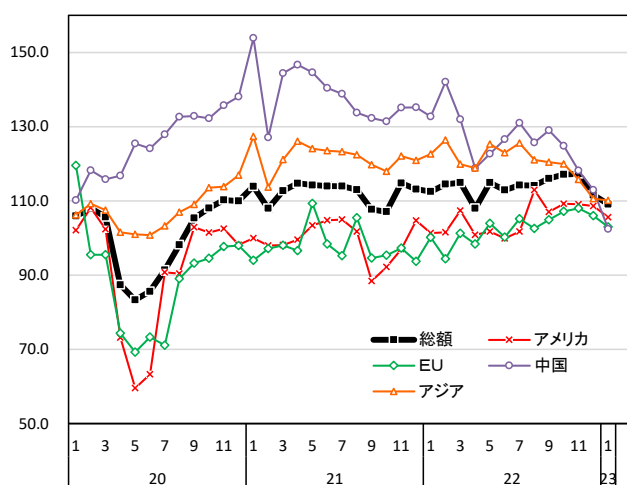
1月の実質輸出を国・地域別に見ると、米国向けが前月比▲2.8%（12月：同▲0.5%）、欧州向けが同▲2.9%（12月：同▲2.9%）、アジア向けが同▲4.4%（12月：同▲4.5%）、アジア向けのうち中国向けが同▲9.3%（12月：同▲4.4%）となった。

1月については、中華圏における春節の時期が昨年と異なったことにより実勢以上に下振れた可能性

があることに注意が必要であり、2月と均して判断する必要がある。一方、1月の米国向けや欧州向けは落ち込みが目立ち、減速感を一段と強めた。供給制約の影響が残存する輸送用機械の停滞に加え、一般機械などの資本財も足元では減少傾向にあり、景気悪化の影響が見受けられる。

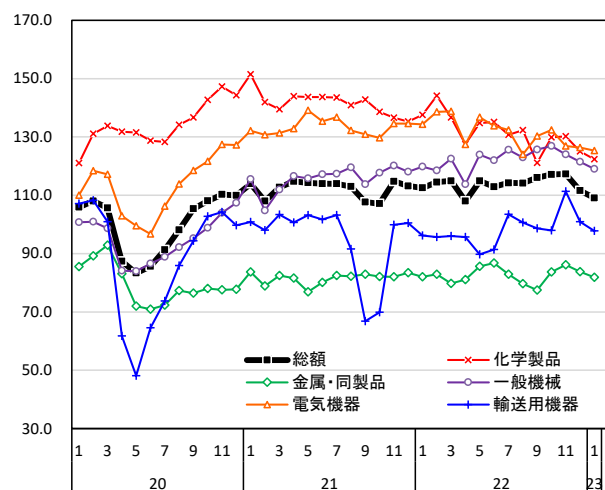
先行きに関しては、中国のゼロコロナ政策からの転換により、足元の感染拡大が落ち着いた後は持ち直しが見込まれる。一方で、金融引き締めの影響でこの先も経済減速を強めることが見込まれる米国向け、欧州向けが落ち込むことで、輸出全体も低迷した状態が続くだろう。資源高、円安の一服によって輸入物価の下落が続くことで貿易赤字は縮小傾向となるものの、輸出の低迷によって当面は高水準の貿易赤字が続くだろう。

地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。